準備期 2〜4月

栽培の準備をしよう！

トマトの順調な生育には、天候・水やり・土壌の3つが大切！

トマトは日光をとても好む植物です。植える場所はできるだけ日当たりのよい場所を選びましょう。
トマトの根は地中で深さ1m、横2.5mほどに伸びます。
根が十分に張り、順調に生育するためには広い場所とたくさんの土が必要です。
また、前の年にトマトやナス科の作物を栽培した土や場所は連作被害が発生しやすくなります。
苗を植える前に、土壌や栽培場所の準備を整え、楽しい栽培をスタートさせましょう。

畑・花壇の準備

作業内容

1 できるだけ日当たりのよい場所を選びます。なるべく連作は避けてください。やむを得ず連作となる場合は、たい肥を多めに入れましょう。

2 定植7〜10日前に、右記の「施肥（せひ）の目安」を参考に元肥をよく混ぜて散布し、深さ15cm以上耕しておきます。

3 水はけをよくするため、高さ30cmくらいのかまぼこ状に土を盛り、畝うねを作ります。さらにマルチシートをかぶせると、雑草がはえない、乾燥を防ぐ、地温が上がり活着しやすくなる、土を跳ね上げないため病気が出にくくなるなどの利点があります。マルチシートとは、作物の根元の周辺を覆うビニールです。大きな黒いごみ袋で代用できます。

栽培のコツ

石灰（カルシウム）不足は、尻腐れ症（16ページ参照）の原因となりますので、必ず入れてください。

たい肥を使用する場合は、必ず完熟たい肥を使用してください。発酵が未熟なたい肥は、作物の生長を阻害することがあります。

施肥の目安（1㎡あたり）

- ●石灰（苦土石灰）：100g
- ●化成肥料：　窒素＝ 5g
  リン酸＝ 20g
  カリウム＝ 10g 程度
- ●たい肥、腐葉土など：2〜3kg

マルチシートで覆った畑

花壇を利用した例

鉢・プランターの準備

作業内容

1 日当たりと風通しがよく、なるべく雨の当たらない場所を選びましょう。

2 元肥がバランスよく配合された市販の野菜用培養土を、苗1本あたり10リットル用意します。
尻腐れ症の予防のため、さらに、カルシウム剤を土に混ぜておくことをおすすめします。

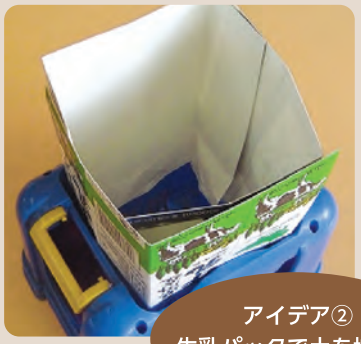
3 苗1本あたり、以下の汚れていない容器を用意します。

- ●プランターの場合：60cm幅の容器
- ●鉢の場合：30cm 鉢（尺鉢）
- ●アサガオの鉢を利用する場合（右の写真）：
  鉢、土のかさ増し用の紙パック、支柱、鉢受け皿を用意してください。
- ●培養土袋をそのまま利用する（下の写真）：
  袋に10数ヶ所ほど小さな穴をあけ、水が抜けるようにします。

アイデア①
培養土の袋をそのまま使用

栽培のコツ

アサガオの鉢など容量の少ない鉢で育てる場合は、下の写真を参考に、なるべく多くの土が入るようにしてください。土を入れた後、紙パックを引き上げると、より多くの土が入ります。
市販の園芸用培養土を使用し、たい肥の使用は避けたほうが良いでしょう。
また、1度使用した土や草花用の土は肥料分が少ないため、使用しないでください。
土の量が少ないと、水、肥料切れが発生しやすく、管理が難しくなります。また、こまめな肥培管理が必要です。



アイデア②
牛乳パックで土を増量！

アイデア③
市販の12リットルバケツに穴をあけて利用

定植期 4〜5月

苗を植えよう！

気温が安定し栽培適温になったら、定植しましょう

トマトの栽培適温は、最低13〜17℃、地温13℃以上です。
苗が届いたらなるべく早く、晴れた風の弱い日に、たっぷりの土に苗を植えつけます（定植）。
苗は定植後、1週間程度で活着（根づいて生長を始める）します。
水やりをおろそかにしたり、地温が低かったりすると、活着が遅れることがあります。

定植（ていしょく）

作業内容

1 定植する2時間ぐらい前に、たっぷりと水やりをしましょう。苗がトレイから抜けやすくなります。

2 根がトレイの形状を保った状態（根鉢（ねばち）・下の写真）のまま取り出します。苗を無理に引っぱると、茎が折れたり、根が切れたりして、その後の生育が大幅に遅れることがあるので、注意してください。

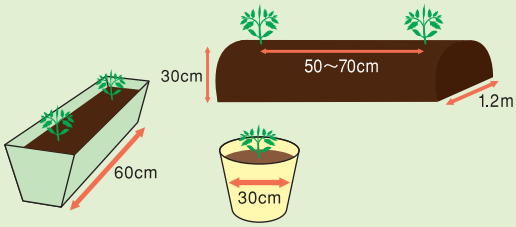
3 根鉢が土の中に全部入るように植えつけ、苗が倒れないように土寄せします。

4 植えつけ後は、根元にたっぷりと水をやり、根を土になじませます。

栽培のコツ

苗と苗の間が近すぎると、根が伸びにくく、大きく育ちません。また風通しが悪くなるため、病害が発生しやすくなります。

菜園や畑の場合、図のように幅1.2〜1.5mの畝に50〜70cmの間隔で1苗ずつ、60cm幅以上の大きなプランターの場合は1〜2苗（苗間30cm）、鉢の場合は、1鉢に1苗を植えてください。



天候不順で低温が続くと、葉の縁や茎が紫色になってきます。この場合は、ビニール袋などの底を切ったもので苗を覆ったり、鉢を日当たりのよい室内に移して地温を確保し、発根を促します。

すぐに定植できない場合の苗の管理方法

苗が届いたらすぐに箱から取り出し、日当たりのよいところに置き、**毎朝必ず水やり**をしてください。届いてから1週間程度でポットの元肥がなくなり、葉の色が薄くなって苗が弱ってきます。

苗が届いてから定植までに1週間以上間があく場合は、追肥（12ページ参照）と同じ要領で、ごく薄く希釈した園芸用液体肥料を与えてください。定植前に開花してしまうと、生育不良となります。花をつみ取ってから定植してください。遅くても苗が届いてから2週間以内に定植してください。

定植期 4〜5月

水やりをしよう！

苗の生育状況に合わせて、水やりをしましょう

水やりは、畑と鉢の場合で実施方法が異なります。また、水の量は土の量や天候によって調整が必要です。
さらに、実が大きくなると水や肥料をたくさん吸うようになります。
トマトは、比較的乾燥に強い植物です。
水のやりすぎは、根腐れや肥料欠乏の原因になるので注意しましょう。
水やりの時間帯は、トマトが光合成を行う、朝のなるべく早い時間がベストです。
夕方以降は水分を吸い上げなくなるので、極力避けてください。

鉢・プランターの場合

作業内容

1. 定植後は1日1回、午前中のなるべく早い時間に水やりをしましょう。
2. 花が咲いたら、週末の水やりは、たっぷりと与えてください。開花・受粉時の乾燥は、尻腐れ症の原因となります。鉢の下に受け皿を置くと乾燥予防になります。
3. 鉢が小さい場合は、実がついたら土の乾き具合を見ながら、1日2回、朝と昼休みに水やりをしましょう。

栽培のコツ

水やりの適量は、鉢底から水がにじみ出る程度です。ザーザーと流れ出るようでは、元肥も流出してしまいます。

子どもたちは、生長が早まると思って過剰に水をやることがありますが、過度な水やりは元肥の流出や根腐れ、軟弱徒長の原因となるので避けましょう。

畑・花壇の場合

作業内容

マルチシートを使用している場合は、原則水やりは不要、雨水だけで十分です。マルチシートを使用していない場合も、土の表面が乾いたら、水やりをする程度で十分です。雨が降ったら、水やりはしないでください。

栽培のコツ

学校では、畑で栽培する場合も水やり当番を決めて、毎日水やりをすることがあると思います。しかし、畑の場合は土の中にある水分で十分育ちますので、水やりはほとんど必要ありません。水は少ないほうが根が伸びやすく、樹が丈夫に育ちます。